

学級活動

児童会活動

○ 学校行事

### 令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	対象となる主な学年	全校児童
取組事例名	「めざせ！！あいさつ名人」		

#### ◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像

児童の実態	取組を通して育てたい児童像
本校の児童は、あいさつはできているが、自分からあいさつできる児童は少ない。学校でのあいさつができて、地域でのあいさつが十分ではない。また、意識が継続せず、できなくなる児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んであいさつすることを通して、様々な人とつながることができる。</li> <li>・いつでも、どこでも、何度でもあいさつができる。</li> <li>・3つの「あ」（明るい声 相手を見る 頭を下げる）を意識してあいさつをする。</li> </ul>



#### ◆ 取組の具体的内容

##### 取組を実施する意図及びねらい

本校は学校目標を「みんなで伸びる～チャレンジ&サポート」とし、そのために「頭を鍛える」「心を鍛える」「身体を鍛える」という3本柱で指導に取り組んでいる。あいさつをすることは「心を鍛える」ことに位置づいており、あいさつをすることで、主体性や積極性、協調性を育てていきたい。

##### 取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

###### <あいさつ名人への取組を周知する>

- ・あいさつをすることへの意欲を高めることを意図してあいさつ名人への取組をすることを伝えた。伝統的に行っていることで、児童はあいさつカードをもらうことへの意欲が高まっていた。

###### <あいさつカード10枚であいさつ名人！！>

- ・進んであいさつする意欲を高めるために、あいさつカードを配布し、10枚たまるとあいさつ名人になるようにした。
- ・教師があいさつカードをもっており、気持ちの良いあいさつや、3つの「あ」を意識したあいさつができた児童にはカードを渡す。そのカードを10枚貼れる台紙に貼っていく。10枚集まると、あいさつ名人になり、校長先生からあいさつバッジをもらうことができる。いろいろな先生にあいさつできるようにするために、1つの台紙に、同じ先生からは2枚までというルールにした。児童は、カードをもらうために積極的にあいさつするようになった。【共感的な人間関係の育成】



###### <あいさつ名人の掲示>

- ・自己存在感をもたせることを意図して、あいさつ名人になった児童を写真に撮り、校内に掲示していった。写真を撮る時には、IWGP（あいさつワールドグランプリ）とかかれたベルトを付けて撮影した。児童は、あいさつへの意欲を高め、あいさつ名人が増えていった。参観日や個人懇談会では、保護者にも見ていただくことができた。【自己存在感の感受】



###### <地域との連携>

- ・地域でも元気よくあいさつすることを通して、人間関係を深めるために、民生委員や登校の見守りをして下さる方へもカードを渡し、協力を呼び掛けた。地域でのあいさつが盛んになってきた。

#### ◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

- 学校アンケートによると81%の児童が気持ちの良いあいさつできていると答えている。あいさつが習慣化してきており、カードがもらえなくてもあいさつができる児童が増えた。
- 高学年になると肯定的な評価が低くなる。「あいさつ名人＝あいさつができている人」ではなく、場に合ったあいさつをすることが大切であることを伝えることが必要であった。